

平成 30 年度第 1 回湖南省環境審議会 議事要旨

日 時 :平成 30 年 10 月 9 日(火) 14:00～16:00
開催場所 : 湖南省役所東庁舎 3 階大会議室
出席委員 : 鈴木委員、野呂委員、池田委員、及川委員、船越委員、足立委員、
吉川委員、高畑委員、上西(保)委員、上西(富)委員、北村委員、
明石委員 (12 名)
欠席委員 : 成瀬委員、藤井委員 (2 名)
事務局 : 谷口副市長、萩原総務部長、加藤総務部管理監、坂田生活環境課長、
安田主幹、堀田主査、渡邊専門員 (生活環境課) (7 名)

1. 開会 (司会:総務部生活環境課長)

(1) あいさつ

- ・谷口副市長あいさつ

(2) 会長及び副会長の選出について

- ・事務局案により、会長は鈴木一実委員、副会長は野呂委員を選出し、承認
- ・鈴木会長あいさつ

2. 議事 (議長:鈴木会長)

「湖南省環境審議会規則第 3 条 2 項に基づき本日の出席委員は 14 名の内出席は 12 名であり過半数以上の出席があり本日の審議会が成立している」と事務局から報告。
湖南省環境審議会規則第 3 条に基づき会長が議長となり、議題の審議に移る。

(1) 報告事項

- ・生活環境課より資料 1 湖南省環境基本計画評価報告書(案)について説明
資料 2 湖南省環境基本計画評価書について報告

審議会委員意見	事務局
会長:10 年間の評価となるため、質問、意見を お願いしたい。	
委員:資料 1 の 3 ページ(4)「重点的に進める 環境保全対策」について、2 つ目の生活環 境で「ごみの分別、不法投棄やポイ捨ての 対策」が 83.3%と高い数値になっているが、 10 年前と現在で、ごみの処理費用に変化は	

<p>あるか。ごみの分別について市は何か施策を講じているのか。</p> <p>委員：市が負担しているもの。</p> <p>委員：ごみの分別について何か施策を講じているか。</p> <p>委員：ごみの排出量が若干増えてきているということであれば、市もできるだけ分別に力を入れ、資源として回収できればごみ処理費用が減らせると指導をお願いしたい。</p> <p>会長：ごみ問題は排出量や施策の現状だけでなく、アンケート結果からも、ごみの分別や不法投棄、ポイ捨て対策の必要性が読み取れる。</p> <p>委員：できるだけ、対策としてやっていただきたい。</p> <p>会長：資料1の3ページ現行計画の進捗状況について右下に11の重点プロジェクトの評価が簡単に載せられているがもう少し詳しく説明いただきたい。資料2の64ページあたりに重点プロジェクトについて細かく書いてあるのでそれについて事務局から説明願う。</p> <p>会長：個人的な意見だが、マイナス的な書き方だと思う。数値目標を達成しているのは、2項目だが資料2の66ページの低炭素まち</p>	<p>ごみの処理費用は個人が負担しているものか。</p> <p>ごみ処理にかかる費用について手元に資料がなく、すぐ答えることができない。家庭系のごみの1人1日当たりの平均排出量については、平成24年度から平成28年度の間785gから812gに若干増えている。処分費も増加していると思われる。</p> <p>ごみの分別について、市で特別な取り組みは行っていないが、直近では、蛍光灯の分別をお願いしている。家庭から出る燃えるごみについては、今のところ特別な取り組みはない。</p>
--	--

がりプロジェクトの「公共施設の緑のカーテン取組率」は達成率95%だが達成できなかったとなっているが、ほぼ達成できなかったとなっているが、ほぼ達成と言えるのではないか。もう少し表現を変えてもよいのでは。評価についてもうまくできている部分をどんどんアピールした方がよいのでは。

委員：5～6年ほど前には大型ごみや色々なごみが山となって捨ててあったが、ここ2～3年は見なくなった。不法投棄が減っていると思うが、全体としてはどうだろうか。不法投棄は減っているのだろうか。

副会長：昔は、空き缶、ごみ袋などがたくさん捨ててあったが、だんだん減っている気がする。成果が出ているのではないか。

会長：「評価報告書」は、最終的に修正し議会に報告し、市民にも公開するのか。

委員：資料1でアンケート調査の概要を出していただいているが、市民18歳以上を対象とするとして、2,000件に配布されたということなのか。事業所も地域団体にも同じことを考える。湖南市として、2,000件がどれぐらいの範囲の意見を反映した数字なのか。回収率が市民31.2%、トータルで623件となっており、標本数としては、そこそこ多いと思うが市民全体の意見といえるのか、それを確実に反映

具体的な数値は、今お伝えできないが、業者委託で、不法投棄のパトロールなどをしていただいている成果が出てきていると思う。大きなごみ、目立ったごみについては、ここ数年、減ってきている。しかし、交差点近く、道路脇や草刈りをした後などは、ごみが見受けられるので市民もアンケートに回答を頂いているのかと思う。今後もポイ捨て対策に関する色々な施策をしていきたい。

最終的にはこの案をもって報告書にし、ホームページで公開する。議会に報告はいらない。

しているかとなると分母の数が幾つかというのをはっきりしておかないと、ある一定の地域の人間の事柄もしくは、ある一定の意識の高い地域の回答を集約したものになりかねない。特に湖南省もそうだが、新興住宅と言われるような新しい人がどんどん入ってきている地域に関しては、もともと湖南省に住まわれている方との意識のずれもあると思う。特にごみ問題に関しては大阪など分別なく捨てているような地域から来た方が多い地域だと分別の意識が非常に低く、ごみ集積所で地域の人が立たれ、後から分別をしているような状況も、私が住んでいる甲賀市では見かける。そういったところに関して、このアンケートの実施の分母数を明確にされた方がいいのではないか。

会長：人口統計などにも載っているので分かるはずだ。分かった上で、それでいいのかというのは、非常に難しい議論だと思う。今、ご指摘があったように全体の分母が何かというのは資料に盛り込んでいくべきだ。今、湖南省の人口は5万人ぐらいか。

会長：18歳以上はそのうちどれぐらいか。10分の1はないように思う。事業所と地域団体の回収率が高く、市民は低い。市民が少ないというのは残念だ。

会長：資料1の3ページ「現行計画の進捗状況の評価」だが、基本目標と基本施策、具体的に重点プロジェクトとの関係はどうなっているか。

52,000人だ。

回収率 31.2%というのは低い回収率になっている。このアンケート結果としては、ぎりぎり信頼をもって公表できる数字であると考えている。

参考資料2が現行計画の施策体系となり、基本目標が5つと基本施策が20ある。「77」は参考資料1の数が「77」ではなく、現行計画の31

<p>副会長：投棄されて、ほったらかしになっていると思ったのが、回収されている。だからきれいになった。非常に少なくなった印象を受けた。</p> <p>副会長：ウツクシマツが枯れているらしいが、どのような状況か。</p> <p>会長：資料1の4ページの自然環境のところに「地球と協力した保全が進められているが、松枯れ被害が問題となっています。」と書いてあるが。</p> <p>会長：重点プロジェクトについて目標を立ち上げ色々やってきたので、その総括は大事だが、特に指摘がないのでこのまま進み、1つ目の「環境基本計画評価報告書（案）について」は一旦閉めることとする。</p>	<p>ページ以降に細かく載っている具体的施策の合計数が「77」である。</p> <p>先ほどの質問の不法投棄だが、市ではパトロールを行っており、回収したごみを可燃ごみ、不燃ごみとして、それぞれの施設に搬入しているが、その量は増えている。不法投棄そのものが増えているという確認は難しいが、パトロールなどを通して不法投棄の回収量は増えている。</p> <p>週に2日ほどパトロールを実施している。地域の代表から不法投棄に関する情報を頂いている。そういった目が行き届いている。</p> <p>今のところ、枯れてなくなったとか、そういう話はない。</p> <p>地域の方が苗を作っている。取り組みが進んでおり、昨年現場を見に行った時、苗を植えておられた。</p> <p>松枯れについては把握しておらず申し訳ない。</p>
---	--

・生活環境課より資料3 第2次湖南省環境基本計画策定方針案について説明

審議会委員意見	事務局
<p>会長：第2次環境基本計画策定方針とスケジュール大枠の基本目標施策の方向性についての説明。イメージとしては重点プロジェクトは今まで11ありましたが、今回はそれをまとめて基本目標に1つずつ設定するようなイメ</p>	

ージなのか。

委員：この計画の見直しというのは、過去10年間の実績なり達成を踏まえて見直すというのが基本だと思う。それから見ると先ほど会長が言われたように、過去10年間の重点項目の総括というか、結果がどう反映されているか、見せ方がよいと思う。もう1つ資料2の最後に課題があり、当然この事業の計画に盛り込むべきものなので、それがどのように盛り込まれているのかわかりづらいと思う。新しい計画は今までの10年間を反映していこうとするというものを、もう少し見えるように記載した方がいいのではないかと思う。

会長：これまでの10年間の総括、反省を受けてどうなのかということ。もう1つは資料2の95,96ページに「課題の総括」があり、それがどう対応しているのか。95ページの「自然環境」というのが、今説明にあった基本目標の1「人と自然が共生するまち」に入るのだと思う。それがもう少し分かるようお願いしたい。

重点プロジェクトについては先ほどの評価報告およびアンケート結果などを踏まえて今後設定していき、現行計画では11の重点プロジェクトがあったが次の計画では基本目標につき1つ重点プロジェクトを掲げる形で進めていければと考えている。

第二次環境基本計画について、環境未来像「野洲川の清流、山々の景色、歴史が育むうつくし湖南」方向性については現行計画から変わっていないので、それを指すための基本目標については、現行計画では、共生・循環・快適・文化・協働の5つを掲げており、今回も基本的には同じような目標として5つを掲げている。現行計画でなかなか進まなかった環境自治、人とのつながりなどについては、できなかったということなので、無くすのではなく、こういった形、内容であれば目標を

委員：基本方針案の4「低炭素・循環型のまち」11「地球温暖化対策の推進」のところで①が「地球自然エネルギー利用促進」②が「地球自然エネルギー観光振興への活用」となっている。自然エネルギーに「地域」という言葉がついていますが、どのような意味でついているのかわかりにくいので説明をお願いしたい。特に11のタイトルが「地球温暖化対策の推進」で地球規模の温暖化問題を言っているにも関わらず「地域」と言っていることに対して違和感がある。

委員：何点かありまして、国というか、世界

達成できるのかということ踏まえて、わかりやすい重点プロジェクトにする必要があり、基本目標にそった形で現行の重点プロジェクトを新しく立てる、そういった形で今後の作業を進めていく方針である。

地域自然エネルギー利用促進というのは「地域」で作ったエネルギーを「地域」に還元することを「促進する」ということで、現在湖南省で取り組みを進めている。具体的には、ソーラーの発電所を市民が協働出資する形で設置しておりその設置した出資の配当を地域振興券である湖南商品券で配当する形で運用しており、そういった意味で「地域自然エネルギーの観光振興への活用」といった書き方をしている。また公共施設について市内にある、こなんウルトラパワーという会社からのエネルギー供給を受けている。買電市場から購入となっており、本来であれば供給するエネルギーもソーラーなどを利用し、地域で作ったエネルギーを利用し、地域に還元する形で運用していくように進めている。大きな施策の方向性としては地球温暖化対策の推進ということ。また湖南省はエネルギーを地域資源と考えた利用促進を進めている。そういった意味で湖南省の「地域自然エネルギー」といった言葉の使い方をしてしている。

的な環境の展望として持続可能な開発目標 SDGs の 17 の目標がある。SDGs の場合 17 のゴールのうちの多くが環境問題に関連しており、これらのゴールを見据えてやっていくという方向になっている。この SDGs をベースに 5 つの基本目標 14 の取り組みをくみだせば今後 10 年間の取り組みがより見やすく市民に分かりやすく世界の潮流にものごとになるのではないかと。そういう見せ方の工夫をしてはどうかというのが一点目。

二点目が社会の変化が見えづらいということ。現行計画で重点プロジェクトを挙げているが、やったことの報告だけでは皆さん分かりづらいと思う。10 年後にはこういうふうな結果数値にしたいというものをインジケータとして追いかけていく。また PDCA を回して評価していくような見せ方ができればより分かりやすくなると思った。重点プロジェクトを推進することが目的ではなく社会をよりよくしていくことが目的であり進行管理もしやすくなる。

三点目が一点目と関係するが資料 3 の 1 ページ左下計画の位置づけで第四次滋賀県環境総合計画を記載していただいているが、現在第五次計画の議論を行っており、先週からパブリックコメントも始まっている。傍聴はしていないが、国はパリ協定、SDGs の目標が 2030 年なので 2030 年をゴールにしている。ただ 12 年間変えないのは長すぎるということで、国の第五次環境基本計画などは 6 年おきに見直すと言っている。今年度から 12 年後は 2030 年。県も第五次計画では初めて計画期間を 12 年間に定めており目標年が 2030 年となっている。国や県は 2030 年をゴールに動きつつあるので、もし条例等で計画期間を 10 年間にするという規定がないのであれば、国や県の目標年と整合を図り 2030 年にご検討頂けたらと思う。

会長：今の提案に答えることができればお願いしたい。または参考にし、次の会議にいかしてほしい。

会長：インジケーター、数値目標の話だが。

会長：確認ですが、説明頂いた資料3の施設体系のところ、現行計画と基本目標の順番が微妙に変わっていますが何か意味があるのか。

会長：重点目標として、一番大事なのは、市民の意識や環境自治、資源をどう考えるのかだと思う。低炭素であれば先ほどの自然エネルギーを目玉にしてみてもどうかと思ったが。他意見があればお願いしたい。

委員：ごみ減量のところで食品ロスの説明だと思うが食品がごみの中で占める割合が多い

一点目SDGsについて基本的には国や県と同じ方向性の計画にしていきたいと考えている。またSDGsは以前から取り組んでいることも多くあり今回は持続可能で無理のない長期的に進めるものと考えている。基本の土台のところは国や滋賀県と同じ方向でいきたいと考えている。最後に言っていた2030年のゴールに合わせるということについて市の環境基本条例では、特に計画期間は明記されていないので貴重な意見として検討していきたい。

現行計画では目標の設定に少し難しいところがあったと思うので未来像に向けて何が変わったのか、市民に分かりやすい形の指標になるよう重点プロジェクトを考えながら設定する必要があると思う。

現行計画と今回の計画では基本目標の順番が変わっているが意図があって変えたものではなく、見やすいように変更した。

議案について突出して取り組みたいもの表現の仕方などお知恵を頂きたい。重点目標の中で、これだけは力を入れてやっていきたいものを分かりやすく表現したい。

と思った。だから食品ロスをここに挙げているのかと思った。

委員：個人的には食品もそうだが相変わらず紙ごみが多い。子どもが持ち帰ってきたテストなどはごみとして捨てるのか、廃品回収がいいのか。手紙類も。シュレッダーにかけて出すと紙ごみで出してしまう。そうするとごみが増える。個人情報があるので悩みながらごみとして処理しているが皆さんはどうされているかと思い質問をした。

分別に協力していただいているが、家庭ごみを減らす対策は難しいところがある。その中でも一番取り組んで頂いている、これから取り組んでいただかなければならないところに食品ロスがある。家庭から出る残飯などをいかに減らして、ごみとして捨てる量を減らしていくのか。スーパーなどの売れ残りをごみとして廃棄しない取り組みはどういったものがあるのか、食品ロス削減をすることによって、ごみ全体の量を減らしたいと考えている。

湖南省ではリサイクルを奨励しているが今は正福寺にある業者に回収してもらい助成金を出すことをしている。テストなどは点数が書いてあると個人情報なので取り扱いが難しいのが実情でシュレッダーされている方もおられるがシュレッダーにかけていただいた方が金額的には高めの料金がもらえる場合があるので、できれば紙については雑紙で出していただければと思う。紙はほぼ 100%再利用できる、個人情報以外のものについては段ボール以外のものも雑紙で出してもらえればごみの量が減ってくると思う。国の第五次環境基本計画の中には「地域循環共生圏」という言葉がありその中で食品廃棄物なども含まれており食品廃棄物については肥料用に変えていくこともできると、今回資料にも記載している。現在湖南省のリサイクル率が約 13%。それを滋賀県の目標では 20 数%に示なくては

委員：先ほどのアンケートの件で、なぜ回収率が30%なのか。また、評価報告書や環境基本計画は日本語で発信することになると思うが、以前にも、市民宛てに分かりやすいリーフレットがあったような記憶があるが日本語以外の多言語の資料を作成していただくことは可能か。この先5年10年と湖南省で暮らしていくことを考えれば計画でやっていくことを一緒に考えて頂いて地域共生という面でも同じように取り組んでいただかなければ、この環境基本計画の推進にも影響があると思う。特にごみ問題はドイツなど意識が高い国の方もいると思うので、そういった方々が知らないままにいるのはもったいない。このような取り組みを英語やスペイン語で翻訳されているものは少ない気がする。翻訳するとなると難しい文章、専門用語もあるが、せつかなので、個人的にはそのような取り組みを考えていただきたいと思う。

自分の子どもの学校へ行くと昔では考えられない名前の子がいる。実際会うと外国の方で子ども達はずっと湖南省にすんでいると思うので日本語もうまい。その親たちがとくにごみ問題に関係すると思うが、自治会にも入っておらず、ごみ袋もないのでごみの捨て方がわからないという方もいる。そのような方たちにもこういった取り組みの発信を検討していただきたい。

いけないという目標値があり今の状態では達成が難しいので食品のロスなどをなくしていくことでごみを減量するしかないと思っており今回のこのような目標をとった。

第五次環境基本計画の地域循環共生圏の中で一番重要なものは、地域資源を再認識すること、それを活用することと書いてあり、湖南省では総合計画の中に地域エネルギーやソーラーなどが盛り込まれており、進んでいる。これは地域独自のものだと思うので、このようなことを中心に載せていきたいと思っている。

会長：ぜひ検討いただきたい。
最後に次回の予定をお願いしたい。

資料3でスケジュールを示している。冒頭副市長の挨拶にもあったように「タイトスケジュールでは審議できない。」という意見もあり皆様の貴重なご意見をできるだけ計画に盛り込んでいくためには審議の回数を増やすなり時間を取るなりしてもよいと市長、副市長からおっしゃっていただいたので一旦ここにスケジュールを出させていただいておりますが、ここから延びることも想定されるということだけ、ご了承いただきたい。

第2回につきましては、予定どおり11月末か12月上旬に予定している。今回のご意見をできるだけ反映し報告書の手直しをし、次回は具体的な新しい計画をお示しできればと考えている。

3. 閉会

野呂副会長あいさつ